

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援西宮たんぼぼ（つむぎ）		
○保護者評価実施期間	2025年10月28日		～ 2025年11月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年10月28日		～ 2025年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	2025年10月28日		～ 2025年11月15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援事業と放課後等デイサービスを併設しており、訪問支援を行うにあたり、保護者と直接、お話ししやすい環境がある。	保護者が事業所に訪れるタイミングで、お時間を設定し、対面で訪問支援前の現状やニーズをお伺いした上で、訪問支援を行い、報告等も行うように心がけている。	保護者のご不安等に寄り添いながら、見えにくい学校園でのこどもの成長や課題点を共有し、今後のアプローチ法もお伝えし、信頼して訪問支援をご利用いただけるように努めます。
2	児童発達支援、放課後等デイサービスとの併用児が多いため、こどもをより多面的に捉えながら支援が行える	学校園（大きな集団）の様子とたんぼぼ（小集団）の様子、ご家庭の様子、それぞれからこどもの理解が進み、具体的支援が可能となるよう、情報共有を密に行っている。	環境の違いによって見えるこどもの状態をアセスメントし、こどもの課題やつよみを理解した上で、より具体的な支援に生かしていきます。 ・訪問支援のみのご利用児に対しても、聞き取り等を通してしっかりアセスメントできるよう学びを深め、見立てからの具体的な支援につながるよう、スキルアップを目指します。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援計画の立案後、訪問先の支援計画内容を知るといった流れになっている	保護者のニーズを受けて支援計画を立案し、訪問を実施する流れの中で、訪問先のニーズを直接、聴き取って支援に反映させていただいている点。	支援計画作成時に、保護者の要望書を依頼する時点で、学校園の支援計画等の共有も依頼し、支援計画に反映できる仕組みを作ります。
2	訪問先、保護者への保育所等訪問支援事業へのご理解を深めていただく取り組みの不足	今年度より訪問支援専門員を配置し、ご利用者の増加がありました。これまでは兼務職員のみでの運営だったため、訪問件数も少なく他事業のご利用児のみだったため、ご理解いただきやすい環境でしたが、しっかりしたご理解ご協力をいただき、連携した支援ができるような仕組み作りに取り組んでいます。	今年度進める上で出てきた課題を明確にし、それを次年度の仕組み化に生かします。
3			